

ご 注 意

地盤の許容応力度及び基礎杭の許容支持力は、国土交通大臣の定める方法によって地盤調査を行い、その結果に基づき定めなければならないと規定されています。(建築基準法施行令第93条)

地盤構成並びに各地層の性状は、場所ごとに千差万別であることから、敷地（状況においてはその周辺も含めて）の地盤調査によって地盤構成等を的確に把握し、その結果に基づいて建物をどの地層に支持させるかを決定する必要があります。

したがって、本資料は計画段階における参考資料としてご活用ください。

栃木県土木部建築課

ボーリング柱状図

調査名 中央青年の家体育館兼講堂その他 孔番 No. No.1 地盤高 _____ m

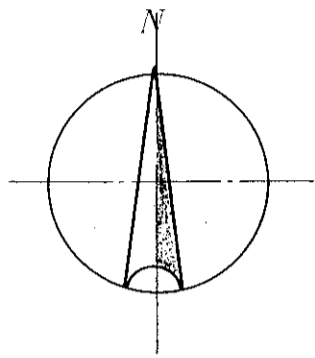
調査場所 新築工事地質調査 宇都宮市 地先 _____ (基準面)

地形 _____ 摘要 _____

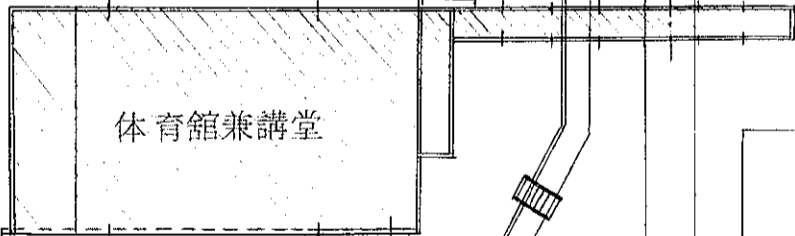
調査期間 昭和53年12月 日 ~ 月 日

地下(孔内)水位 GL-4.00m 調査担当者 _____

標地下水 高位 (m)	深度 (m)	層厚 (m)	土質記号	土質	土性		備考	(註) 試料		標準貫入試験										
					色調	相対稠度		番号	記号	採取深度 (m)	原位置 試験深度 (m)	打撃回数								
												0	10	20	30	40	50	60	70	
0	0.90	0.90		表土	黒灰															
1.00	0.90	0.10		鹿沼土	赤褐色			1	1/20.1	1.15	1.45	2								
							関東ローム 有機物少量混 る。													
							ローム			1/20.1	3.15	3.45	2							
	4.00	0.40		鹿沼土	黄褐		含水あり。			1.2.2.	4.15	4.45	5							
	4.40	0.40		腐植土	暗灰褐色					1.2.1.	5.15	5.45	4							
	5.70	1.30		粘土	灰白		砂質を呈し粘 性小含水多。			1/15.1/15	6.15	6.45	2							
	6.60	0.90								18.26.2/	7.15	7.36	21							
							礫φ50%内の 礫混入多い。 所々φ80~120 %程度も介在 8.70m透水			13.14.21.	8.15	8.45	18							
											9.15	9.20	5							
							砂 礫			24.26	10.15	10.35	20							
	10.75	4.15									11.15	11.25	10							
							軟質凝灰岩													
											12.15	12.45	18							
										18.24.8/	13.15	13.38	53							
										26.24/	14.15	14.29	14							
											15.15	15.26	11							
										42.2/3	16.15	16.28	13							
	17.26									48.2/1	17.15	17.26	11							

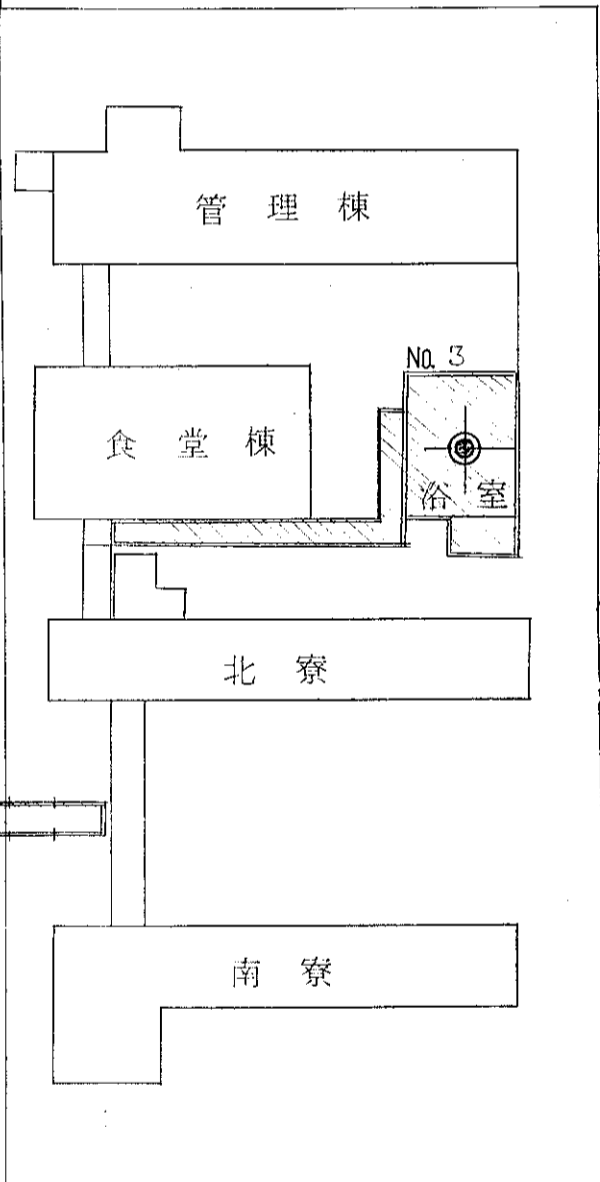


No. 2



体育館兼講堂

No. 1



管理棟

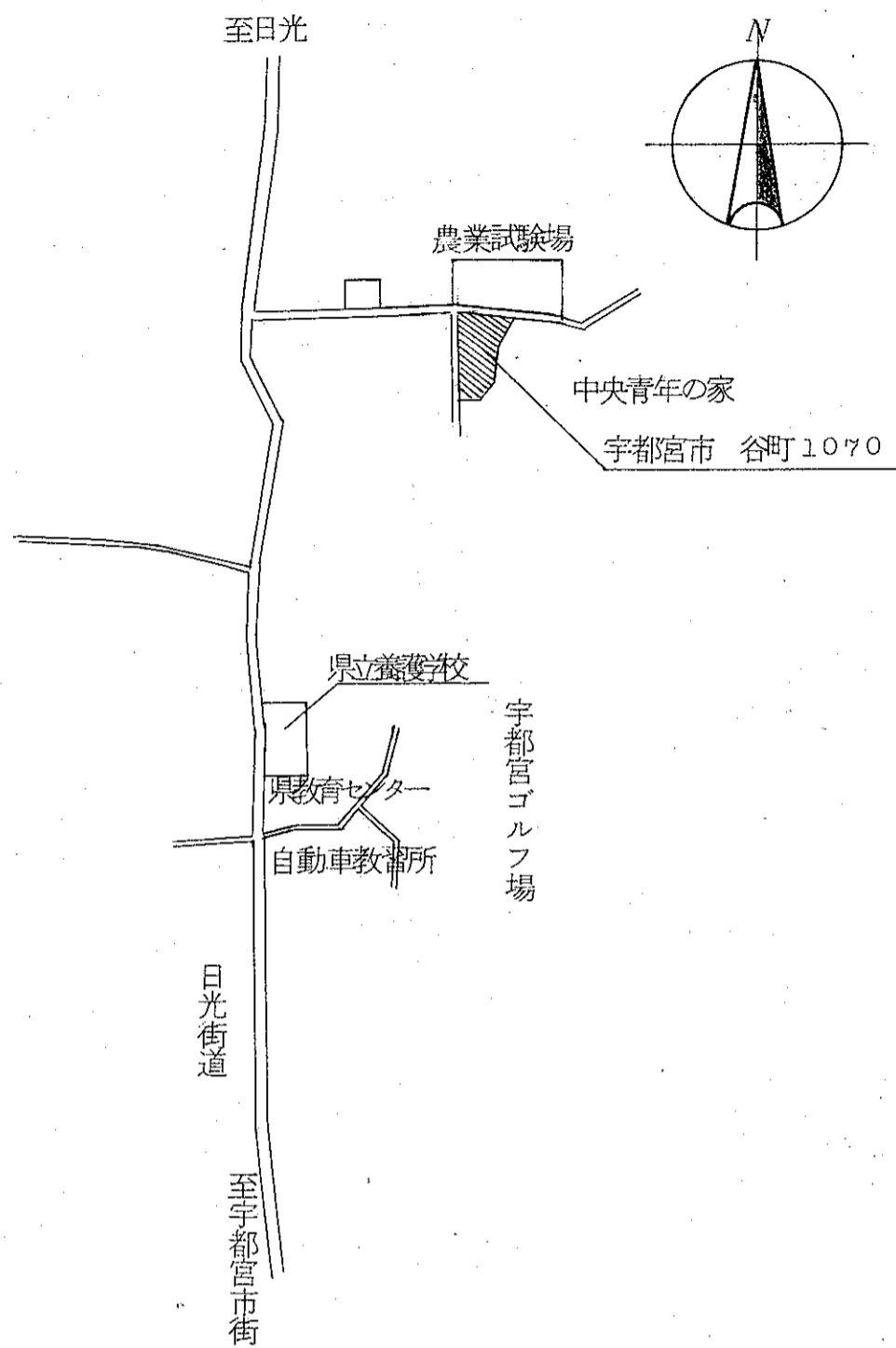
食堂棟

No. 3

浴室

北寮

南寮



案内図

中央青年の家体育館兼講堂その他新築工事地質調査
位置図及び案内図 S = 1 / 600

◎ ボーリング地点